

一人ひとりを大切にした 一人ひとりが輝ける 地域とともにある学校



とよの東学園だより

Травень

号

<https://www.town.toyono.osaka.jp/school/toyono-higashi/>

令和8(2026)年5月



新緑がまぶしい季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、本校はこの4月に開校し、早くも1ヶ月が経過いたしました。子どもたちは、新しい学びの環境の中、少しずつ学校生活に慣れ、毎日元気に過ごしています。朝のあいさつから始まり、授業や休み時間、給食の時間に至るまで、どの学年の子どもたちも生き生きとした姿で学校生活を送っています。特に、休み時間には、ご寄付により設置していただいた遊具での遊びをはじめ、バスケやサッカー、ドッチボールやひなたぼっこなど、グラウンドのあちらこちらで、学年を超えた「つながり」で仲良く遊ぶ様子が見られています。1～9年という幅広い年齢差がある中で、異学年での関わりが自然と生まれていることは、義務教育学校ならではの大きな特徴だと感じています。9年生のある生徒は、たてわり掃除の時間にかわいい1年生と関わることが本当に嬉しかったようで、「掃除がきれいじゃなくなった。」とつぶやいていました。今後、様々な学習活動においても、異学年の「つながり」を大切にしながら、子どもたちが主体的に考え、学び合う姿が見られるように、教職員一同、日々試行錯誤を重ねながら、よりよい教育活動の展開をめざしてまいります。

一方で、不安や悩みを抱えている児童生徒がいることにもしっかりと目を向け、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、すべての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、「チームとよの東学園」のオールスタッフで丁寧に支援してまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

とよの東学園 副校長 高畑 大輔

とよの東学園 副校長 高畑 大輔

お知らせ

- 4月27日から支援員に が着任しました。
- 学校・家庭連絡システム「すぐーる」登録へのご協力、誠にありがとうございました。今後の欠席・遅刻連絡につきましては、可能な限り「すぐーる」をご活用いただき、8時20分までの入力にご協力をお願いいたします。なお、8時30分までにご連絡のない場合は、これまで通り、こちらから確認の電話連絡をさせていただきます。
- 年度初めのクラス集合写真を写真業者に依頼し、全学年撮影いたしました。教材費で一括購入させていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 今年度より、豊能町教育委員会の方針を受け、3・4年生で宿泊学習を行うこととなりました。実施時期や内容等については現在調整中ですが、5月30日(土)の学年懇談会において、概要をお伝えさせていただく予定です。

《4月の主な活動》

10日（金）開校式・遊具のお披露目



令和8年4月10日、義務教育学校「とよの東学園」の開校式が行われました。豊能町長から校長へ校旗の授与があり、新校歌の披露などが行われました。また、地域・保護者・卒業生等のたくさんの方々の寄付により設置していただいた、複合遊具のお披露目とテープカットセレモニーがありました。



14日（火） 1・2年 学年集会・学校たんけん



1年生にとって初めての小学校生活は、朝の準備の仕方から手のあげ方、正しい鉛筆の持ち方など…、覚えることがたくさん！そんな中、1つ上の学年の2年生と一緒に学校たんけんをしました。頼りになる2年生に色々教えてもらいながら、一つずつ覚えていこうね。

■玉本 英子さん ～ウクライナからのレポート～

昨年12月、人権講演会にお越しいただいた、ジャーナリストの玉本英子さんが、去る3月中旬にウクライナへ取材活動に渡航されました。ウクライナ中部、ゼレンスキー大統領の生まれ故郷として知られるクリヴィー・リフという街で、攻撃が続くなか勉強を続けている現地の小中学校を訪問された際、本校有志の児童生徒が平和への願いを込めて折った折り鶴を届けてくださいました。以下、玉本さんからのレポート（抜粋）です。

『3月30日に、中部クリヴィー・リフの第84小中学校の5年生へ鶴を渡しました。（中略）まず、東能勢小中学校のことや、みんながウクライナのみなさんのことを思っている気持ちを伝えました。そのあと、みなさんが心を込めて折った折り鶴を、5年生一人ひとりに渡しました。ウクライナの子どもたちは「オリガミ」を知っていましたが、丁寧に折られた鶴を手に取り、興味深そうに眺めたり、目を輝かせたりする姿が見られました。一つひとつの折り鶴に手書きで書かれた「надія〈ナディーヤ〉」（ウクライナ語で「希望」）の文字をじっと見つめている子もいました。また、その折り鶴を折った日本の児童生徒の名前がローマ字で書かれていることもうれしかったようです。ウクライナの児童のみなさんは、東能勢の子どもたちに向けて、「ありがとう」「日本のみなさんの幸せを願っています」「私はこの戦争が終わってほしいです」といったメッセージを、それぞれ小さな紙に書いてくれました。それを色紙に貼ってくれたので、帰国後（まだ未定ですがたぶん5月末か6月上旬）にお渡しします。』

◆女子児童 ソフィア

「日本の子どもたちが、このようなプレゼント（折り鶴）を作ってくれて、とても嬉しいです。心から感謝しています。折り鶴が平和のシンボルだということも分かりました。 さん、ありがとうございます。」

◆女子児童 アドラ

「日本に行って、日本の子どもたちとお話ししてみたいです。そして、プレゼントをありがとうと伝えたいです。私たちのことを忘れずにいてくれてありがとう。私たちのためにこれを作ってくれてありがとう、と伝えたいです。」



2026年3月・撮影:アジアプレス



2026年3月・撮影:玉本英子



2026年3月・撮影:玉本英子

とよの東学園 ブログ

検索



とよの東学園の活動を紹介！